

17. 胃癌における血漿 Endostatin, Cathepsin L, sVEGF R1の臨床的意義と免疫 組織学的検討

第一外科

大川哲弥, 宮地和人, 砂川正勝

【目的】 Endostatin (ES), Cathepsin L (Cat-L), sVEGF R1の血漿中の発現量を, 胃癌患者と非担癌者とで比較し, 臨床病理学的因子との関連を検討した. また組織血管密度, ES, Cat-L発現量との関連性を検討した.

【対象・方法】 壁深達度T2からT4の進行胃癌患者27例と非担癌者9例の血漿ES, Cat-L, sVEGF R1 levelをELISA Kitを用いて測定した. また胃癌組織においてCD34陽性脈管数, ES, Cat-L陽性細胞率を算出した.

【結果】 胃癌患者は非担癌者に比べ血漿ES値が有意に高値であった. 臨床病理学的因子, 組織血管密度, ES, Cat-L発現量との関連性はなかった. 血漿Cat-L, sVEGF R1は有意差がなく, 他因子との関連もなかった. 血漿ES値は有用なマーカーとなる可能性があると思われた.

18. Ecad, OPNのmRNA発現 によるHCV-HCC術後早期再発の予測に関する検討

獨協医科大学第2外科

磯 幸博, 澤田登起彦, 岡田としえ, 窪田敬一

【背景】 E-cadherin (Ecad), Osteopontin (OPN)のmRNAの発現がC型肝炎肝細胞癌 (HCV-HCC)の術後早期再発に有用であるか検討した.

【方法】 HCV-HCC 44例を3か月以内再発群 (G1: n = 6), 6か月以内再発群 (G2: n = 4), 1年以内再発群 (G3: n = 4) および非再発群 (G4: n = 30) とに分類し, Real time PCR法によりGAPDH (control), EcadおよびOPNのmRNAを定量解析した. 得られたデータから以下の式によりt値を算出し, 各群間で比較検討した. $t = \text{count of OPN or Ecad} \times 1000 / \text{count of GAPDH}$.

【結果】 手術所見, 病理組織所見と, G1, G2, G3およびG4とに相関は認められなかった. t-Ecadは, G1, G2, G3のいずれにおいてもG4より有意に低値であった (G1: G4 = 0.4: 28.1, $p = 0.0002$), (G2: G4 = 4.0: 30.6, $p = 0.0145$), (G3: G4 = 9.2: 32.9, $p = 0.0051$). t-OPNはG1, G2, G3においてG4よりも高値の傾向を認めた (G1: G4 = 92.6: 65.7, $p = 0.57$), (G2: G4 = 457.1: 58.15, $p = 0.24$), (G3: G4 = 221.8: 53.5, $p = 0.06$). また1年以内再発群 (G1 + G2 + G3 = GR) と無再発群 (G4 = GN) とを比較するとEcad, OPNともに傾向と有意差を認めた (Ecad, GR: GN = 3.7: 33.0, $p < 0.001$), (OPN, GR: GN = 147.8: 53.5, $p = 0.026$).

【結語】 Ecad, OPNのmRNA発現の検討は, 肝細胞癌術後早期再発のpredicting valueとして有用であった.